

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 6 - 1 2 7 5 6 2

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 5 月 10 日

(51) Int. Cl. <sup>5</sup>

B65D 33/36

B65B 3/18

B65D 30/16

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

6916-3E

Z 9146-3E

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平 4 - 2 7 8 2 4 6

(22) 出願日 平成 4 年 (1992) 10 月 16 日

(71) 出願人 000106106

サラヤ株式会社

大阪府大阪市東住吉区湯里 2 丁目 2 番 8 号

(72) 発明者 更家 一郎

大阪府大阪市東住吉区湯里 2 丁目 2 番 8 号

サラヤ株式会社内

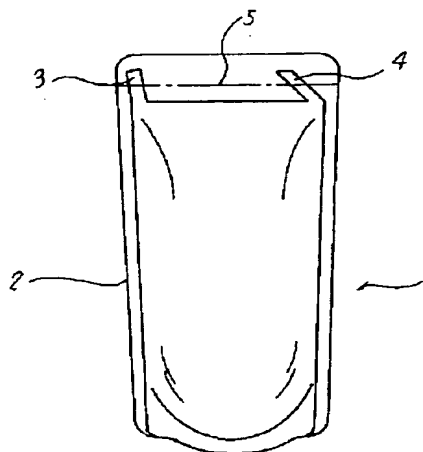
(74) 代理人 弁理士 森本 義弘

(54) 【発明の名称】 液体収納用袋

(57) 【要約】

【目的】 袋内の液体を最後まで安定した流れを保ちながら取り出せるようにした液体収納用袋を提供することを目的とする。

【構成】 内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂からなる袋 1 を立てた状態において袋 1 の上端のヒートシール部 2 の一部に突出するように液体取り出し口 3 およびエア一口 4 を形成し、前記袋 1 の上端のヒートシール部 2 を液体取り出し口 3 およびエア一口 4 を横切るようにカットして袋 1 から液体を取り出して移し替え用容器に詰め替えるとき、液体取り出し口 3 から出る液体とエア一口 4 から入る空気が置換され、液体取り出し口 3 の内面同志が密着した状態になるようなことなく、袋 1 内の液体を最後まで安定した流れを保ちながら取り出すことができるようにした。



- 1 --- 袋
- 2 --- ヒートシール部
- 3 --- 液体取り出し口
- 4 --- エア一口
- 5 --- カット線

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において袋の上端のヒートシール部の一部に突出するように液体取り出し口およびエア一口を形成し、前記袋の上端のヒートシール部を液体取り出し口およびエア一口を横切ってカットするように構成したことを特徴とする液体収納用袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】 本発明は、洗剤などの液体を収納する液体収納用袋に関するものである。

## 【 0 0 0 2 】

【従来の技術】 従来から家庭などで使用される洗剤などは合成樹脂製の容器に詰められて販売されているが、例えば容器内の洗剤がなくなると合成樹脂製袋の中に入った詰め替え用洗剤を購入し、この詰め替え用洗剤を空の容器内に詰め替えていた。

## 【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】 従来から知られているこの種詰め替え用洗剤などの液体が収納された合成樹脂製袋の殆どは正面から見て矩形を呈し、液体を袋から取り出して空の容器内に詰め替えるとき、袋の上端の 1 つの角部を缺などでカットして液体取り出し口を形成した後、袋を手にとって作業を行っており、袋内部の液量が多いときは袋内部への空気の流入（置換）が不足しても液体取り出し口から液体が勢いよく流れ出るが、袋内部の液量が少なくなると袋内部への空気の流入が不足して液体取り出し口の内面同志が密着した状態になり、数箇所の細い口から方向が定まらない状態で液体が流れ出るという問題があった。

【 0 0 0 4 】 本発明はこのような課題を解決するもので、袋内の液体を最後まで安定した流れを保ちながら取り出せるようにした液体収納用袋を提供することを目的とするものである。

## 【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】 上記問題を解決するために本発明は、内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において袋の上端のヒートシール部の一部に突出するように液体取り出し口およびエア一口を形成し、前記袋の上端のヒートシール部を液体取り出し口およびエア一口を横切ってカットするように構成したものである。

## 【 0 0 0 6 】

【作用】 上記構成により、袋の上端のヒートシール部を液体取り出し口およびエア一口を横切るようにカットして袋から液体を取り出して移し替え用容器に詰め替えるとき、液体取り出し口から出る液体とエア一口から入る空気が置換され、液体取り出し口の内面同志が密着した状態になるようなことなく、袋内の液体を最後まで安定

2

した流れを保ちながら取り出すことができる。

## 【 0 0 0 7 】

【実施例】 以下、本発明の一実施例について、図面に基づき説明する。図 1 ～ 図 3 において、1 は内部に詰め替え用洗剤などの液体が収納された所謂スタンドバックと称する自立型の合成樹脂製袋で、この袋 1 は立てた状態において正面から見て矩形を呈し、周囲がヒートシールにより閉じられている。2 はそのヒートシール部である。3 および 4 は袋 1 を立てた状態において上端に形成された液体取り出し口およびエア一口で、これらは袋 1 の上端のヒートシール部 2 の一部に突出するように形成されている。さらに詳しくは、液体取り出し口 3 は袋 1 の一側部に、エア一口 4 は袋 1 の他側部に近接して形成され、かつ液体取り出し口 3 は先端が袋 1 の一側部の角部に向くように傾斜し、エア一口 4 は液体取り出し口 3 の傾斜角度より僅かに鋭角に先端が袋 1 の一側部の方向に向くように傾斜している。

【 0 0 0 8 】 5 は前記袋 1 の上端のヒートシール部 2 に液体取り出し口 3 およびエア一口 4 を横切るように画されたカット線で、このカット線 5 に沿って缺などでカットすることにより液体取り出し口 3 およびエア一口 4 が共に開口するようになっている。

【 0 0 0 9 】 上記構成において、洗剤などの液体が収納された袋 1 から液体を取り出し、液体を移し替え用容器 6 に詰め替えるとき、液体取り出し口 3 から出る液体とエア一口 4 から入る空気が置換され、液体取り出し口 3 の内面同志が密着した状態になるようなことなく、袋 1 内の液体を最後まで安定した流れを保ちながら取り出すことができる。また、エア一口 4 が液体取り出し口 3 と同方向に傾斜していることにより、液体取り出し口 3 から移し替え用容器 6 に液体を注いでいる最中に袋 1 を強く握るとエア一口 4 から液体が飛び出す、その液体は液体取り出し口 3 からの液体と合流する方向、即ち移し替え用容器 6 の口に向かって飛び出し、移し替え用容器 6 の外部に飛び散るのを防止できる。

【 0 0 1 0 】 なお、図面に示す実施例において前記袋 1 は下端部が膨らんだ所謂スタンドバック状になっているが、周囲 4 辺がヒートシールされて全周にわたって縁部が線状となるように形成されたものでも良い。また、液体取り出し口 3 は先端が袋 1 の一側部の角部に向くように傾斜し、エア一口 4 は液体取り出し口 3 の傾斜角度より僅かに鋭角に先端が袋 1 の一側部の方向に向くように傾斜しているが、袋 1 を立てた状態において液体取り出し口 3 およびエア一口 4 を真上に向かせたり、互いに逆方向に向かせたりしても良い。さらに、前記袋 1 は内面に合成樹脂フィルムが装着されたアルミ箔で作られたものでも良い。

## 【 0 0 1 1 】

【発明の効果】 以上のように本発明によれば、袋から液体を取り出して移し替え用容器に詰め替えるとき、液体

3

4

取り出し口から出る液体とエアークから入る空気が置換され、液体取り出し口の内面同志が密着した状態になるようなことなく、袋内の液体を最後まで安定した流れを保ちながら取り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施例における液体収納用袋の正面図である。

【図 2】 同液体収納用袋の上端のヒートシール部をカッ

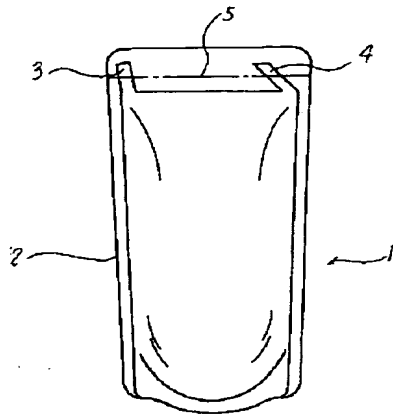
トした状態を示す正面図である。

【図 3】 同液体取り出し時の状態を示す斜視図である。

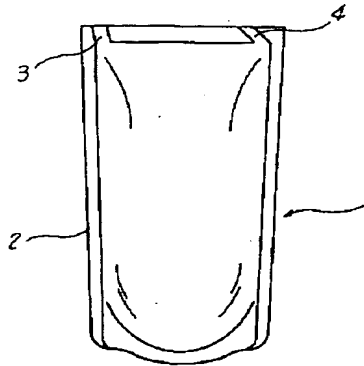
【符号の説明】

- 1 袋
- 2 ヒートシール部
- 3 液体取り出し口
- 4 エアーク
- 5 カット線

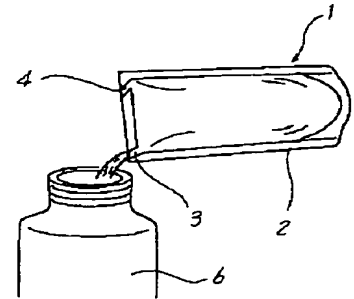
【図 1】



【図 2】



【図 3】



- 1---袋
- 2---ヒートシール部
- 3---液体取り出し口
- 4---エアーク
- 5---カット線